

学校経営目標	具体的計画	令和7年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 まなぶ子 自ら考え、伝えることのできる子ども	①ICT活用、協同学習で児童が考えを表現する授業づくりと特別活動の充実 ②朝学習や補充学習、家庭学習(学年×10＋10分)の充実で児童の基礎学力定着 ③家庭読書、ノーメディアデー等の取組で読書に親しむ児童の習慣づくり ④通常学級や特別支援学級、通級指導教室で個に応じた特別支援教育の充実	①授業中、自分の考えを友達に伝えることができていますかという回答が90%以上である。(児童、教職員)	児童88%	B	・達成基準まであと少しという結果である。しかし、これまでに比べると自分の考えを積極的に伝えようとする姿勢は見られる。ベアトークやグループトークを積極的に取り入れていくことは変わらず各クラスで継続し、自分の考えを自信をもって友達に伝えられるように個人思考の時間をしっかり取ることも大事に授業を行っていく。				
		②家庭学習をしていますかという回答が81%以上である。(児童、保護者)	児童83% 保護者85%	B	・達成基準に達しているが、家庭学習の目的を理解して取り組むことができているかという、そうではない児童が多いと思う。時間と内容のバランスを考え、自分に必要な家庭学習を考えていくように指導する。 ・家庭学習ができていないと答えた児童には個別に指導を行い家庭学習の習慣をつける。				
		③おうちの人と決めたルールを守って、ゲーム/パソコン、スマホ(携帯)などを使っていますかという回答が74%以上である。(児童、保護者)	児童92% 保護者77%	B	・達成基準に達しているが、児童は92%と肯定的な意見が多く、保護者の77%に比べると15%ほどの差がある。なかなかルールが守れないという話も保護者の方から聞くことがあるため、メディアの使い方や依存症の危険性等を日頃から指導していく必要がある。 ・ほけんだよりを通して家庭でのメディア使用についての状況を周知し、声掛けを継続していく。 ・学校保健委員会の方でも、メディアについて取り上げていけるようにしていく。				
2 なかよくする子 相手を認め、思いやりのある子ども	⑤SELで感情をコントロールできる児童の育成 ⑥縦割り班活動や同学年、保幼小中交流等のピア・サポートで支え合う児童の育成 ⑦道徳や生活目標と関連付けた品格教育で望ましい児童の人格形成 ⑧「まず行動」し、「さわやかなあいさつ」を交わし、「きょうりょくする心」を大切にする児童の育成	⑤いやなことがあったとき、自分の気持ちを落ち着かせることができますかという回答が77%以上である。(児童、保護者)	児童:77.7% 保護者:75%	B	・到達基準に児童は到達しているが、保護者の結果を見ると到達していない。学校では、自分の気持ちをコントロールしようとしている児童が多いことが分かる。引き続きSELを計画的に行っていく。				
		⑦時間や決まりを守って生活ができていますかという回答が92%以上である	児童:93.1%	B	・到達基準に児童は到達しているが、休み時間の過ごし方や移動の様子を見ていると、時間を意識して行動している児童が少ない。週の目標で、時間を意識させるめあてを行ったり、ノーチャイムを計画的に行うことで時間を守る児童を育ていきたい。				
		⑧気持ちのよいあいさつや返事ができていますかという回答が93%以上である	児童:96.2%	B	・到達基準に児童は到達しているが、登校してきて教室に入るときのあいさつの声が小さく、大勢の前での返事の声も小さい。毎週木曜日に運営委員会が「あいさつ運動」を行い、良いあいさつをしている児童を表彰していく。 ・低学年から「名前を呼ばれたら大きな声で返事をする」を徹底させていく。				

学校経営目標	具体的計画	令和7年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
3 げんきな子 元気で、最後までやりぬく子ども	⑨教育相談体制を充実させ、全教員で児童の心を育てる ⑩メディアコントロール週間・生活しやきつと週間で、児童の基本的生活習慣を確立 ⑪児童がマナーを守って楽しい給食にし、残さずバクバク食べる食育の推進 ⑫体育の授業、業間運動で心身を鍛え、体力・運動能力の向上とアクティブ体操によるけがの予防	⑨学校が楽しいですかという回答が91%以上である。(児童、保護者、教職員)	児童:96.2% 保護者:93%	A	・教育相談やいじめに関する毎月のアンケート結果を見ても、学校が楽しいと感じている児童がほとんどである。一方で、登校しづらい児童も中にはいるので、個に合わせた対応を家庭と連携して行っていく。				
		⑩早寝・早起きができていますかという回答が74%以上である(児童、保護者)	児童:82.3% 保護者:74%	B	・「生活しやきつと週間」での指導もしているが、否定的な回答をしている児童・保護者が一定数いる。全体への指導を引き続き行うのも大切だが、できていない児童や保護者に焦点を当てて声掛けを行っていく。 ・学級活動で生活習慣に関する指導を行う。				
		⑫運動(体を動かすこと)は好きですかという回答が94%以上である。(児童、教職員)	児童:93.1%	B	・昨年度の同時期よりも、肯定的な回答が増えてきている。しかし、否定的な児童が少数いるため、外遊びの楽しさや体を動かすことの楽しさを、体育委員会・げんきな子部会で呼びかけていく。				
4 家庭や地域組に信頼される教職員 活学校と主学校的にチームで取り	⑬学校支援ボランティアの活用による教育活動の充実 ⑭学校便りやホームページ等の情報発信による学校教育への理解 ⑮1学期末、2学期末の学校評価による短いPDCAサイクルで、スピード感ある教育活動の改善 ⑯「まなぶ子部会」「なかよくする子部会」「げんきな子部会」の3部会で学校教育目標の具現化 ⑰新学習指導要領の趣旨に沿った学習指導で、児童が自ら考え、伝えることのできる授業実践	⑬学校からのたより等から、行事や学級の様子がよく分かるという回答が93%以上である。(保護者)	保護者:97.9%	A	・達成基準に十分に達している。各学年の学級通信や学校通信で学校行事や学級の様子を毎月保護者へ配付し、保護者と児童が家庭で一緒に読んで話し合ってもらえるようにした。また、「すぐーる」を通して毎月の行事連絡等を行うようにしており、保護者は、スマホ等で学校の行事連絡を把握できるようにしている。今年度、ホームページの更新ができていないので、2学期以降に随時アップしていくようにする。				
		⑯学校からのたより等で「まなぶ子」「なかよくする子」「げんきな子」の取組がよく分かるという回答が91%以上である。	保護者:95.8%	A	・達成基準に十分に達している。三部会の取組が学校・学級のたよりや保護者への懇談等で伝えられており、家庭での協力を仰ぐようにできている。引き続き、保護者や地域へ発信していくことを続けていくようにする。				
		⑰授業中自分の考えをノートに書くことができますか。という回答が90%以上である。(児童)	児童:88.5%	B	・達席基準を少し下回っている。授業中に協同的な学びを進めていっているが、自分の考えをノートに各時間が十分にとることができていない部分がある。また、書く活動を苦手としている児童が各学年に数名程度いるため、ノートやタブレットにしっかりと自己の考えをまとめる時間を確保しつつ、苦手な児童に対して支援を行うようにする。				